

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期： 金曜4限			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
村尾 敏彦、中村 英一朗			
目DP1, 歴DP5	幼DP1, 学DP1, 特DP1	人DP4, スDP1	
添付ファイル			

授業テーマ	「ワークショップ」を体を動かすことや、グループワークに参加することを通して基本から学ぶ
講義概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれませんが。そのような中でこのワークショップ論では①体験する（参加者はグループワークやディスカッションを通して相互に学び合う）、②振り返る（自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する）、③一般化する（体験を分析し概念化する）、④応用する（それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える）を通して、人間の成長につなげます。
到達目標	実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学ぶことができる。学びを通して、自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる。
評価方法	振り返りシートへの記入等平常点（20%）と第14回の授業でのレポート（80%）
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明する。 ・必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。 ・レポートについては、15回目の授業で、説明・評価し返却する。
評価基準	体験の振り返りにおいて、言語化し、一般化し、体験の意味するところを理解することができる。（可）非日常の体験から、日常の自分と現実の社会・世界との関係を見つめ直し、できることから自分を変容していくことができる。（秀）
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時講義の中で、感じたこと考えたことを「振り返りシート」に自分の言葉で丁寧に記載すること。 ・教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。履修者数が定員を超えると、抽選を行う場合があります。
準備学習＜予習・復習の時間・内容＞	<p>本科目の2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要です。</p> <p>30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習を目安に取り組むこと</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容に関わる情報収集をする <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「差別・偏見」「南北問題」「国民総幸福量」「他者」、あるいは心に残った事柄について、事後にインターネット等を利用して調べる
オフィスアワー等	授業中、授業終了後、あるいは、村尾については金曜日3時限目に個人研究室（1-234）で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	過去の受講生は、この授業で友人をつくることが多かったようです。生き方についてグループで話し合うワークがはいつているためでしょうか。
科目ナンバリング	

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
第1回	演習	村尾敏彦 中村英一朗	ワークショップとは？ （7つの側面・話し合うルール作り・聞くトレーニング）	授業の目的と全体像を理解する ワークショップとは何かを説明できるようになる		
第2回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ワークショップの基本 （ブレインストーミング・CARRトレーニング他）	ワークショップの基本を具体的な事例をもとに学び、使うことができる。		
第3回	演習	中村英一朗 村尾敏彦	ダイヤモンドランキング （仕事に求めるもの）	「仕事に求めるもの」について、ダイヤモンドランキングの手法を用いて考え、自分なりの意見・感想を述べるができる。		

